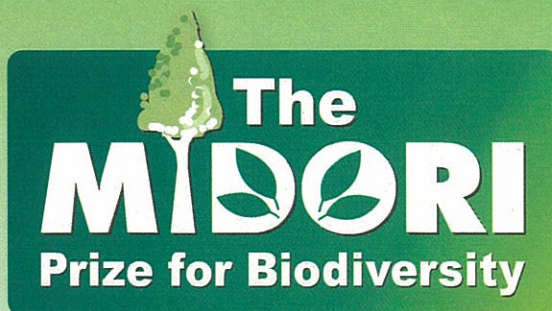
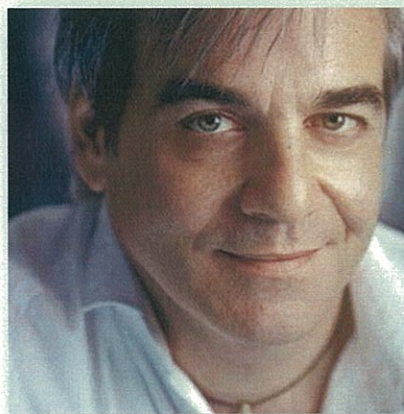




—The MIDORI Prize for Biodiversity (生物多様性みどり賞)—

受賞者 フォーラム 2010



生物学者、探検家、映画製作者

ジャン・ルミール氏



スタンフォード大学教授

グレッチェン・C・デイリー博士



インドネシア大統領諮問会議 議長、
元インドネシア人口・環境大臣

エミル・サリム博士

●日 時 / 2010年10月29日(金) 9:30~12:30

●会 場 / 上智大学四谷キャンパス10号館(同時通訳)

●受講料 / 無料(事前申込要)

●主 催 / 公益財団法人 イオン環境財団

●共 催 / 上智大学 地球環境大学院、イオン株式会社

●申込先 /

The MIDORI Prize for Biodiversity (生物多様性みどり賞)について

公益財団法人 イオン環境財団は、本年5月、生物多様性に関し顕著な貢献等が認められ、かつ今後も生物多様性に関する取組みへの影響を有する個人を称え、サポートする「The MIDORI Prize for Biodiversity」(生物多様性みどり賞)を創設いたしました。

9月21日(火)、国連本部で第1回目の受賞者である上記3名の方を発表し、10月27日(水)にCOP10会場(名古屋市)にて授賞式を行う予定です。

この度、より多くの皆さまに持続可能な活動の重要性の理解を深めて頂きたいと、受賞の方を招聘致しました。

公益財団法人 イオン環境財団

講演者について

ジャン・ルミール（カナダ）：生物学者、探検家、映画製作者

ルミール氏は、生物学者でもあり映画製作者でもあるというユニークな経歴を活かし、映画の製作を通じて環境問題に対するメッセージを発信してきた。自らが探検隊長として実施した南極探検の様子は、長編ドキュメンタリー映画「最後の大陸」および科学TVシリーズ「南極でのミッション」に収められており、気候変動に直面した海洋や南極の生態系の脆弱さなどについて多くの子どもたちが学ぶ機会を提供した。2010年、ルミール氏は生物多様性条約事務局よりグリーンウェイブの名誉大使に任命され、生物多様性に関連した意識を高め、子供たちや若者が活動に参加する機会を拡大し続けている。これからも自身の活動を通じて、生物多様性を含めた環境問題のメッセージを発信し、世界中の人、とりわけ次世代を担う若者を多く巻き込んでいくことが期待される。

グレッチェン・C・デイリー（米国）：スタンフォード大学 教授

デイリー博士は、社会・経済活動によって破壊されてきた環境に対して、経済的な価値を見だし、生態系サービスという概念からその保全に貢献してきた。また、150以上の学術論文を発表し、生物多様性の経済学（TEEB）など、環境に関する様々な国際的な枠組みを創出するにあたって多大な貢献をしてきた。近年は、より大きく費用効果が高い投資を動かすことによって、生物多様性と人間の福利を改善することを究極の目的とする、「自然資本プロジェクト」に尽力している。これまで個別的であった保全活動を包括的に捉え、科学、ビジネスそして政策につなげた意義は深く、さらに継続的な研究活動、また生態系サービスという概念の更なる国際的な普及が見込まれる。

エミル・サリム（インドネシア）：インドネシア大統領諮問会議 議長、元インドネシア人口・環境大臣

サリム博士は、インドネシア国内の環境政策形成や実施、また、生物多様性に関するNGOの創設などに取り組んできた。また、世界に先駆けて開発計画に環境配慮を統合させ、開発に環境の視点が盛り込まれるよう尽力したことが国際的に評価され、環境保全と経済の両立に関する数々の国際会議では先導的な役割を果たしてきている。最近では、SATOYAMA イニシアティブの推進やUN-CECAR（国連大学気候及びエコシステムの変動適応研究に関する大学ネットワーク）にも取り組んでおり、これまで国内外の政策意思決定に多大な貢献をしてきたことはもちろんのこと、現在でも生態系の保全と経済の両立に向けて、数々のメッセージを世界に発信し続けている。